

製造業から「ラボラトリー・エンジニアリング」というサービス業へコア事業を転換させた中小企業

東京都千代田区のオリエンタル技研工業株式会社(従業員97名、資本金1億円)は、従来は、科学・医薬分野、バイオテクノロジー分野等における研究・実験用の設備・機器の製造・販売を行っていたが、それだけでは価格の勝負になることから、研究室や実験室に最適な仕様を有する設備に関するコンサルティングやプランニングという、これまでにない事業領域へとコア事業を転換させた企業である。

同社の強みは、長年、設備機器メーカーとして蓄積してきたノウハウと、研究者のニーズへの理解力を背景に、「ラボラトリー・エンジニアリング」、「ラボラトリー・デザイン」というコンセプトの下、ラボの安全性に配慮した最適な研究室や実験室の設計・提案を行うアレンジ能力である。自前の技術に固執せず、海外の有力メーカーとの業務提携を通して積極的に最先端の技術を導入し、ラボデザインに活かしている。また、2005年に東京大学医科学研究所に寄付講座を開設し、さらに2009年には東京農工大学工学部との共同研究をスタートさせ、最先端技術を手がける研究者のニーズを把握することで、コンサルティングやプランニングの能力の向上を図っている。

付加価値の源泉を見極めてニッチな事業領域を開拓した上で、大学との交流を通して把握した研究者のニーズと、海外の最先端技術の導入や同社の技術力をマッチングさせ、新たな価値を創造していく総合力が、同社の競争力となっている。



研究者のニーズを活かした「ラボラトリー・デザイン」